



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.66

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2010年12月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL047-351-4464 FAX047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp
ホームページ <http://members3.icom.home.ne.jp/wjf/>
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

米国 Thanksgiving Day・・・感謝祭の日

日本からの楽器にサンクス！ 現地の新聞が社説で感謝

A day for giving thanks: An editorialYoshio Toyama, who came from Japan in August to perform at Satchmo Summer Fest with his traditional jazz band Dixie Saints, gave young musicians at O. Perry Walker High School musical instruments and \$1,000 for the school's jazz studies program. A gift that supports New Orleans' musical culture and helps train the next generation of jazz musicians is especially important.



銃の犠牲になった故ブランドン・フランクリン君(22)の遺影の前に並べられた日本からの楽器たち=2010. 8. 5、オー・ペリー・ウォーカー高校で

アメリカ中が感謝の気持ちで満たされたその日・・・

毎年11月の第4木曜日は、アメリカの「感謝祭」の日。英語でサンクス・ギビング・デー（Thanksgiving Day）と呼ばれ、七面鳥を食べることで有名なこの日は、日本でも昔からよく知られている。元々1620年代、最初に新大陸に上陸した清教徒達が食糧不足や病気で苦難しているとき、原住民の助けで生き延びたことを感謝して・・・という歴史を持つ。この感謝祭当日は、アメリカ中が感謝の気持ち溢れます。

あれから5年、戻ってきたすべてのものに・・・

ニューオリンズ唯一の地元紙「タイムズ・ペキューン」紙は、『A Day for Giving Thanks—感謝を捧げる日』と題して、感謝祭の11月25日、“5年前ハリケーンですべてを失った私たちは、いま復興し持てるようになった全てのものに皆様への深い感謝の念を感じます！”との社説を掲載した。

復興に携わった人々、団体への感謝、フットボール・チーム“ニューオリンズ・セインツ”の優勝への感謝、重油の流出という悲劇はあったもののハリケーンが一つも来なかったこ

とへの感謝などとならんで8月、日本からやってきて「サッチモ・サマーフェスト」に出演した楽団が、地元オー・ペリー・ウォーカー高校のジャズ・プログラムに楽器と寄付金を贈呈したと、日本ルイ・アームストロング協会の活動への感謝の文が掲載されていた！

<ニューオリンズの音楽をサポートし、次の世代のジャズ・ミュージシャン達を育てる日本からの贈り物は、この上なく重要なものです>と。

日本ルイ・アームストロング協会発足から16年、WJF 会員の皆様、スタッフの皆様、協力して下さる企業、団体の皆様、多くのジャズファンの皆様・・・多くの皆様に支えられて続けてくることができた“サッチモの孫達への楽器”・・・。

日本の多くの皆様にも心からの感謝を！

ジャズとサッチモの故郷でこれだけ感謝される活動に育てていただいたことを、皆様に心より感謝申し上げます。

（外山喜雄・恵子）

思い出いっぱいの2010年を振り返り WJF からも感謝を込めて…
設立趣旨の初心を忘れず新たな卯年にピョンと飛躍！

**WJF の理念を現地で引き継いでいる
 スラムの子供たちへ「無料音楽教育」**

昨年2009年の米感謝祭の日、CNN ニュースが選んだ草の根活動のヒーロー10人の優勝者が発表されました。惜しくも1位は逃しましたが、2位の栄冠に輝いたのはニューオリンズのスラムの子供達に無料音楽教育を提供している団体「ザ・ルーツ・オブ・ミュージック (RoM)」(代表・デリック・タブさん)でした。この活動は、永年“銃に代えて楽



上は RoM の練習風景を見学する外山夫妻(右端上)。下はデリック・タブ代表(前列右端)ら指導者と夫妻

器を！”のかけ声のもと続けてきた、私たちの“サッチモの孫達へ楽器を”に大きなヒントを得て現地で始まった活動でした！！

そして今年2010年の感謝祭の日、ハリケーンへの壊滅的被害からの長かった5年を振り返り、「タイムズ・ペキューン」紙の社説は、感慨を込めて復興に寄せられた支援への感謝の言葉を掲載しました。そして、その中に、日本からの楽器に対する感謝の言葉が含まれていたことに、私たちも、とても感激しています。

**皆様に支えられた WJF16年の活動
 サッチモの郷里でも芽生え花が開く**

日本ルイ・アームストロング協会の会員、スタッフ、ご協力者の皆様、多くのジャズファンの皆様に支えられた16年の活動が、ジャズとサッチモの故郷のお役に立ち、かつ認められ感謝される存在になった事を、皆様とともに心から喜びたいと思います。

日本ルイ・アームストロング協会(ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF)の設立趣旨にこう書かれています。

1) 偉大な『ジャズの王様』ルイ・アームストロングの業績を顕彰するとともに、氏の持つジャズを通じて、世界中の人々に愛と平和をもたらす精神を継承します。

2) サッチモの精神のもとで、ニューオリンズ・ジャズからスイング・ジャズ、そしてモダンジャズまで、全てのジャズファン達が、サッチモの音楽を後世に伝えていくために集まり、例会などを通じてサッチモの音楽、映像を楽しみながら仲間意識を持ち集いあう団体となれることを目指す『ジャズ愛好家クラブ』です。

3) その活動の象徴として、“サッチモの孫たちへの楽器プレゼント”などのチャリティー活動を行い、名唱『ワット・ア・ワンダフルワールド』(この素晴らしき世界)のもつサッチモ精神の実践につとめます。

**来年は早くもサッチモ没後40年
 ジャズとサッチモの夢を広げよう**

The Times-Picayune

Yoshio Toyama, Wilbert Rawlins share love of music and New Orleans kids

Published: Tuesday, August 11, 2010, 8:09 AM

Charles Strong, The Times-Picayune

Follow

about this story

View all

I felt lucky to be in the band room at O. Henry Walker on Thursday. I watched a skillful exchange, a musical exchange, a string of lovely moments.



One of my favorite moments occurred when band director Wilbert Rawlins gave Yoshio Toyama an official 2010 band sash and made him an honorary member of the O. Henry Walker Marching Band.

It happened after the renowned trumpet player presented musical instruments to the school for the second year in a row.

Yoshio Toyama of The Times-Picayune writes: "I was honored to be in the band room at O. Henry Walker on Thursday. I watched a skillful exchange, a musical exchange, a string of lovely moments."

"You've graduated from friends to family," Rawlins told Toyama and his wife, Keiko.

It is seen in his eyes and a huge smile, Toyama put on the sash.

Photos from the Times-Picayune - NOLA.com

Wonderful World Donation at OPW

Posted: Monday, August 09, 2010, 9:45 AM



Wonderful World Donation at OPW

Posted: Monday, August 09, 2010, 9:45 AM

Susan Wong, The Times-Picayune

Follow

about this story

View all

SUSAN WONG OF THE TIMES-PICAYUNE: Yoshio Toyama of Japan's "Satchmo" in his own way, O. Henry Walker band sash is awarded by OPW band director Wilbert Rawlins. He, as Charles, Fujita and Yoshio to the Kiko Toyama look on. Toyama, his band and members of the Wonderful World Jazz Foundation for the second year in a row, visited Thursday, August 5, 2010 with students and staff of O. Henry Walker College and Cadeau Prep High School, bringing donations of new instruments and money for the school. Kiko Toyama and his group are in town to his first at Satchmo Elementary. At O. Henry Walker, Toyama was presented with a band sash and told they would like to come their jazz studies program in his honor.

上の写真と記事は、nola.com のホームページに掲載された地元紙「タイムズ・ペキューン」の紙面から抜粋しました。

とハートを広げて頂ければ幸いです。
 日本ルイ・アームストロング協会会長・外山喜雄
 外山恵子

新春のライブからクリスマスパーティーまで…2010年を振り返って 日本列島北から南…アメリカ、カンボジアまで“愛”を広げる

2010年(平成22年)、今年もいろいろなことがあり、思い出がふくれあがっています。会報「ワンダフルワールド通信」は、この66号で今年5回目の発行になります。そんな中から WJF、外山夫妻、そしてセイントをめぐる主な出来事を拾い集めてみました。

新年早々の1月4日、今年のWJF仕事始めは、1994年からWJFの楽器を銃に代えて楽器をにご賛同下さり、楽器をご寄付いただきました、壊れた楽器の無償修理もご担当下さっている(株)グローバル(福田忠道会長)の新年会に招かれ、同社の楽器店新大久保ダクの小ホール、スペースDOで新春演奏会。楽器修理をお願いしている

グローバル管楽器技術学院の植田正之学院長もジャズ行進！！

続いて1月11日、昨年スタートして大好評だった「デキシーランド・ジャズ・ジャンボリー」

が東京・日比谷公会堂で2回目の開催(写真①)。トラ年を飾るにふさわしく「タイガー・ラグ」が咆哮、会場にとどろき渡る。

1月末、WJF 会員、森忠英彦さんのご紹介で、元カンボジア大使篠原勝弘さんを通じて、**カンボジアの学校に縦笛130点他を寄付(写真②)**。

春3月は餃子とジャズの街、宇都宮市の市立田原西小学校でセイントによる「**学校出前コンサート**」。このライブはさらに6月15日の同市立**戸祭小学校**(外山喜雄さんの母校！)へも飛んで、東京デイズニーランド出演23年間の経験が存分に生かされ、子供たちを大喜びさせた(写真③)。

7日、東京・西銀座で「ジャズひな祭り」。外山恵子 & Jazzin' Babies の出演。リーダーの恵子さんの司会・進行がちょっぴり甘く、ユーモラスなムードを漂わせる。

3月19日は、米コロムビアレコードの名プロデューサー、あのジョージ・アバキアンさんの91歳のお誕生日。各地からジャズ界の大御所が参集、日本からはジョン・コルトレー

ンの世界的な研究家、藤岡靖洋さんがお祝いに駆けつけた。そんな盛大な会場に流されたのが、何と日本から送られた外山喜雄さんのユーモラスなサッチモ風ハッピーバースデイの歌のメッセージ。お客さんたちの笑いを誘う。

5月、とんでもない悲報が飛び込んできた。我々がニューオリンズを訪れる際、いつもおどけた表情で出迎えてくれた TBC ブラスバンドの**ブランドン・フランクリン君**(22)(写真④=遺影)が13日、トラブルに巻き込まれてピストルで射殺されてしまったのだ。そのニュースの確認、弔電、

関係各方面へのお見舞いに追われる。5月15日、「新宿 春の楽しいジャズ祭り」で盛り上がっていた頃だった。

もう一つ、5月の重大ニュース。ユナイテッド航空の**機内誌「ヘミスフィアーズ」**(5月号)の“ヒーロー”のページに夫妻が登場(写真⑤)。海を渡ってニューオリンズの子供たちに楽器を送っているという WJF の活動が紹介された。読者は月に700万人だそうですよ！

6月2日には、18点の楽器が日本通運のご協力ですニューオリンズへ向かいました。

6月3～7日、写真家の故佐藤有三氏の友子夫人が娘さんと2人でサッチモ

ハウス博物館を訪れ、同館に贈られ、展示・活用されている佐藤

氏撮影のパネルなどと感動のご対面(5～7面)。

サッチモの誕生日と命日がやってくる真夏は、ジャズファンにとっても楽しい日々が続く。まずは命日の7月6日、東京・お茶の水のアテネフランセ文化センターで **WJF 例会の開催(写真⑥)**。今回は外山喜雄・恵子のご案内するサッチモワールド5回シリーズの最終回でルイ・アームストロングとたどるジャズの歴史は「**デキシーランド・リバイバルとサッチモ大使**」。思い出の“サッチモ名画”の中でも特に忘れられない名場面もたつぷりと映し出された。

7月19日は「**サッチモ祭**」(アメリカ大使館後援)(次ページの写真⑦)。それも**第30回**という記念すべきお祭り。それが新装なったばかりの東京・恵比寿のゴージャスな「エビスビール記念館」で開催できたというのも幸運だった。

心はもうすでにニューオリンズに飛んでいた。7月31日



出発の「外山喜雄&セインツと行くニューオリンズ・ニューヨーク“サッチモの旅”」(国際交流基金の助成を受けました)。はじめは NYC でハーレムツアーやサッチモハウス博物館訪問、サッチモ夫妻の墓参り(8~9面)。ニューオリンズ入りはサッチモの誕生日の8月4日。地元**オー・ペリー・ウォーカー**高校での**楽器の贈呈(写真⑧)**、ジョージ・ルイスの墓参り、サッチモ・サマーフェスト、ルーツ・オブ・ミュージックの授業参観(2面)、**教会でのジャズミサ(写真⑨)**など…酷暑の中の日程を無事こなして、8月10日に帰国。

8月21~22日、WJFもバックアップ、この会報編集長の山口義憲さんが司会を務めている「第4回ふるさとのジャズ交流祭 in 斑尾」が斑尾高原で開かれている。

8月25~26日、東京・浅草公会堂でトーマス・フィッシャーとニューオリンズジャズオールスターズ&外山喜雄とデキシーセインツ出演の「第

24回浅草ニューオリンズフェスティバル」(写真⑩)。

3日後の29日は、日比谷公会堂での「第42回サマージャズ」にもセインツが出演。

9月4日、毎年

広島からジャズツアー参加の宇野ゆりかさん、ご自身の教えるサクソ教室兼ジャズバー、サクソBARのキャラバン15周年のゲストで演奏。

9月12日、千葉県志津で長年ジャズコンサートを主催しているジャズ・イン・志津に招かれ、佐倉市市民音楽ホールに出演。

9月11~12日に杜の都・仙台市内で「第20回定禅寺ストリートジャズフェスティバル」。ここではハリケーン・カトリーナ以来ニューオリンズ支援に大きな力となって下さっているジャズミーブルース・ノラ経営の佐々木孝夫さんが、WJFの活動を壁新聞などで大いにPR、黒人の子供たちのジャズバンド人形も、こちらから送られてきている

10月に入って1日は、あの伝説のピアニスト、**サー・チャールズ・トンプソン**さん(92歳!)が奥様ともども日本に帰ってきて千葉・オリエンタルホテル東京ベイの新浦安HUBで盛大な**“帰国ライブ”**(写真⑪)。2日千葉ベイサイドジャズ、10日横浜ジャズプロムナードと、大きなジャズイベントに続けて出演、千葉ではニューオリンズ式セカンドライン・ジャズパレード、横浜ではJATPオールスター・デキシーと銘打ってすばらしいイベントとなった。

10月17日、早稲田のOBが集まる稲門祭では、大隈講堂前特設ステージにボニージャックス、白石信とナレオハワイアンズ、セインツが出演、セインツのステージには、タモリが共(狂)演、その模様がYouTubeに投稿され、3、4日で20万アクセスというビックリハプニング。

セインツは再び宇都宮入りして「ミヤ・ジャズイン2010」(11月6日)へ、ふるさとでスイング!

14日新宿トラッドジャズでは、トランペット・サミットとセインツの

ステージで盛り上がった。

同18~19日にはまたまた仙台に飛んだ。

地元のアマチュア・ビッグバンド「ジャイブ・ユニティー・ジャズ・オーケストラ」が第32回定期コンサートでルイ・アームストロングを取り上げるということで、外山夫妻がゲストとして招かれたのだ(12~13面)。

12月2日WJF会員、勝股幸子さんのご紹介で、日本記者クラブで開催された日本フィランソロピー協会の、街角のフィランソロピスト、文部科学大臣賞等の受賞者のために授賞式で演奏、小中学生、高校生、お年寄りまで“街角”でボランティア活動が続けるみなさんとWJFが素敵な交流。18日には、浦安の障害者福祉センターで、障害児のためのクリスマスコンサート。

2010年の締めくくりは12月23日、新浦安HUBでのWJF恒例のクリスマスパーティー。セインツのクリスマスソングの熱演、サー・チャールズ・トンプソンさんとの共演、会員のみなさんの飛び入り演奏、のど自慢、“サッチモの旅”の同窓会…お楽しみいっぱいです。

今年2010年は、**東京ディズニーランド**の入り口のディズニームーード一杯のショッピングモール、**イクスピアリ**の**出演(写真⑫)**も増え、子供達からお年寄りまでにサッチモのハートとジャズを楽しんでいただく機会も増えました!

(写真④と⑨は、米のマルシア・サルターさん提供)



佐藤友子さん(有三氏夫人)、娘さんとNY感動の“電撃訪問”

サッチモ邸でコグスウェル館長らスタッフ、セルマおばさんも大歓迎

館内ツアーでは「この方のご主人が、ここでサッチモ夫妻のこの写真を…」とガイドさん

現地には氏撮影の選りすぐり16枚！ ビジターのジャズファンにもお披露目

イチヨウやケヤキの葉が黄金色に染まって、その落葉が今にも始まりそうに、駅前広場を覆い尽くしていた、11月25日午後、外山夫妻ともども千葉・松戸市、新京成・常盤平駅近くのレストラン『アマポーラ』(常盤平3-2-14、電話:047-389-2550)に、またまた佐藤友子さんをお訪ねした(写真下)。佐藤さんは、この会報「No. 58」号で詳細をお伝えした稀代の“ジャズ写真家”、故佐藤有三氏の奥様。氏の写真が、今夏もまたまたニューオリンズの「サッチモ・サマーフェスト」会場周辺をたっぷりと埋め尽くし、ファンの目を楽しませてくれていたという現地報告を兼ねての訪問。友子夫人が

娘さんとお二人で、ニューヨークの「ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム」(LAHM)を“電撃訪問”したというサプライズも何としてでもお伺いしたかった。このサッチモ邸では、



佐藤氏撮影の、スナップ写真が絶賛され、昨年すでに力作16枚が当地に送られて展示、活用されている。友子さんの目に映ったサッチモ邸は…。(小泉良夫)

『アマポーラ』はまさに“ジャズ写真館” 膨大な写真ファイルも秘蔵されて…

『アマポーラ』店内は、いまも一世を風靡したジャズマンの写真(もちろん佐藤有三さん撮影)に囲まれた、ジャズファンにとっては心躍る別天地。この日、定員20人ほどのお店は、ほぼ満員で友子さんと娘さんは大忙し、我々の対応どころではないですよ。でもって、友子さんから手渡された3冊の分厚く膨大な有三氏撮影の写真ファイルに目を通すことになった。60年代から70年代来日した当時の本場ジャズマンすべてを網羅したまさに目を見張る作品群。岩城宏之さん、渡辺暁雄さんといったクラシックの巨匠の写真も。タバコの紫煙をくゆらせたなかのジャズマンの写真などは、もはや“世界文化遺産”でしょうね。外



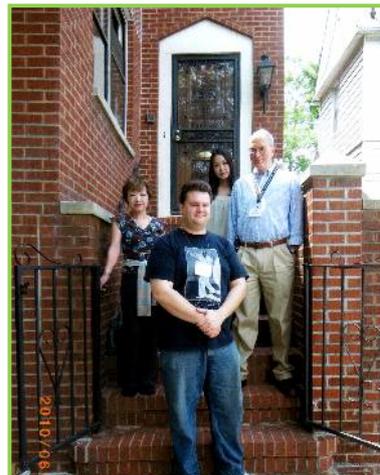
サッチモハウス博物館でコグスウェル館長(左端)らスタッフの歓迎を受けた友子さんとお嬢さん

山夫妻がため息を漏らす。「うーん、こういうのって写真博物館とかどこかで展示したいですねえ」。

一段落して友子さんが来てくれました。「行きましたよー、おかげさまで、外山さん」と。サプライズ訪問は、6月3日から7日までの慌ただしい日程だった。

店を訪れたWJF会員の岡本さんが 「ぜひとも！」勧めた“サッチモの旅”

この友子母娘のNYC訪問の動機というのが、何と会報「No. 58」号を読んだWJF会員さん、岡本節夫さんの“お勧め”だったという。「あの会報をお読みになって、岡本さ



サッチモ邸の“あの階段”前で、スタッフも加わり…

んをはじめ何人かの会員さん達がお店にいらしてくれています。なかでも岡本さんが、熱心に外山ご夫妻と“サッチモの旅”に行つては？と、勧めてくれたんです」

友子さんにしてみれば、それは、それは行ってみたい“サッチモの旅”。「でも、このお

店を10日間も休むわけには、いきませんですしねえ」。…とはいいいながら、「うーん、なんとか…」から、「よーし、ニューヨークだけでも、行ってやるぞ」と、気持ちが盛り上がってくる。「そうやってパンフレットとか、やたら資料を集めまくってニューヨーク行きを固めていきました」。友子さんは英

語の勉強も、ネイティブの先生について続けている。だからニューヨークでの会話も、通訳なし。「まあ、度胸だけですよ」と微笑む。

もちろん外山夫妻も、そんな友子さんの NYC 行きをバックアップし、お嬢さんとお二人の訪問予定など詳細をサッチモハウスの館長、マイケル・コグスウェルさんらスタッフに伝えていた。

NY ホテルからは地下鉄で出かける まさに“センチメンタル・ジャーニー”

「ホテルからは(ネットでも調べていたので)地下鉄で行きました。マンハッタンからトンネルを出ると、景色が一変するんですよ

ねえ。(そう、まさに、国境のトンネルを抜けるとそこは雪国…みたいなのです)それに、駅についたら周囲は素敵な落書きだらけ…で



お隣の名物おばさん、セルマさん(左)も、にこやかに出迎えてくれた

何か心が躍ってきました」と友子さん。きっと有三さんの足取りをそこに見つけたのかも知れません。

駅から歩いて「ルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアム」へ。入り口のガラス越しに館内を覗くと、お隣に住む、あの名物おばさん、セルマ・ヘラルドさん(87歳!)の姿が見えた。ドアを開けて中に入り、「わー、セルマさん！ 待っていていただいたんですかあ？」と友子さん。…と、セルマさん、「あたしゃ、毎日、ここに来ているですよ」。コグスウェル館長らスタッフのみなさんも全員が揃って、お二人を迎えてくれた。

外国からのファンと一緒に館内へ そこで有三氏の写真が紹介され…

この日、ここを訪れた他国からの観光客と一緒に友子さんとお嬢さんは館内ツアー。「廊下や手すりにリフトの着いた階段など、意外に狭いんですねえ。でも、あのお風呂場の金ピカぶりには驚きました」。居間や書斎を回ったときに、ガイドさんが、まさに、その部屋でのサッチモ夫妻のスナップをツアー客に示し、「このサッチモ夫妻がくつろいでいる写真など、この自宅でのサッチモの素晴らしい写真を撮っ

て下さったのが、ここにおいで佐藤友子さんのご主人な



「この写真なんですよ！」と、こんな具合に館内ツアーのビジターに有三氏の写真が紹介されています…と、かつてコグスウェル館長(右端)から送られてきたサッチモの書斎でのスナップ=中央で有三氏の写真を掲げているのはセルマさん

んですよ」と思いもよらぬ紹介に、ツアー客は一斉に驚きの眼を向ける。中には拍手を送るツアー客もいた。

館内ツアーが終わると、コグスウェル館長が写真集ともいえる大作の自著『オフステージのサッチモ』にサインをしてプレゼントしてくれた。「素敵な写真をありがとう」と添えられていた。コグスウェル館長は、同館発行のタブロイド判小冊子「ディッパーマウス・ニュース」最新号も手渡してくれた。そこには、有三氏撮影の、居間でくつろぐサッチモ

夫妻のツーショットが大きく掲載され、紹介されていた。

友子さんは、外山夫妻へのメールで、次のようにこの当時の気持ちを振り返っている。

くルイ・アームストロング・ハウス・ミュージアムを訪ねたことは、ちょっと大げさかもしれませんが、主人の写真がいくらかで



「ディッパーマウス・ニュース」でも大きく紹介された有三さんの写真

も、サッチモ・ファンへの橋渡しが出来たかな、という誇らしさと、主人の当時の足跡を辿ってみたいという

思いからでした。確かに充実した小旅行でした。でも思
い描いていた「センチメンタル・ジャーニー」は強行スケジ
ュールの観光、ショッピング、グルメ・ツアーに取って代わ
った感はありませんけど…>

短い滞在ではあったけれど、感動的な訪問であったこと
は、我々にも、しっかりと伝わり、受け止めることができた。
外山夫妻も、「いやあ、本当に良かった。お話を聞いて
感動しました」と。

「スイングジャーナル」の誌上を飾り 世界に飛ばたい傑作写真の数々

1960年代から70年代にかけて、
写真家の故佐藤有三さん(写真右)が、
エリントン、ベイシー、コルトレーン、
マイルス等々、来日したジャズの巨
人達を撮影した素晴らしいポートレ
ートが「スイングジャーナル」誌上に
掲載された。佐藤さんはサッチモが
70歳を迎えた1970年(当時サッチ
モは1900年の生まれとされていて、
のちになって1901
年生まれだったことが判明した)、野
口久光さんとサッチ
モ宅を訪問、まさにアット・ホーム
にくつろぐサッチモとル
シール夫人…そして2匹の犬たち…
の見事なポートレートを残した。
残念な事に佐藤さんは若くして亡
くなられてしまったが、私たちの
ニューオリンズでとりためた写真
を集めた写真集『聖地ニューオリ
ンズ 聖者ルイ・アームストロング』
(冬青社)の出版に当たり、本の表
紙と巻頭部分に佐藤さんの貴重な
サッチモ・ポートレートを使わせ
ていただくこととなった。その直
後から佐藤さんのサッチモ写真
を巡る暖かいハートの輪が広が
っていった。



インがあまりにも素晴らしいので、
是非、サマーフェストのポスター、
チラシ等のロゴに使用したい！
との依頼だった。こうして2008
～9年、2010年と3年続けて、
サマーフェストの開催されるニ
ューオリンズの夏、佐藤有三さん
撮影のサッチモが優しく笑い
かける表紙をそのまま使ったポ
スターが街中に溢れている。

今年6月、佐藤友子さんはお
嬢様とともに長く夢見ていたNY
を訪問、サッチモハウス
での、ハウスをあげての歓待を受
けてこれ、ハウスのスタッフ、
またお隣のセルマおばさんと心
の通い合う出会いをされたその
喜びとお礼の気持ちを私たちに
伝えてくれました。

私達日本ルイ・アームストロング
協会は、佐藤さんの素晴らしい
写真をハウスに贈呈するという、
素晴らしい機会にお役に立てた
ことを、心より誇らしく感じさ
せていただいております。

1960～70年代のポートレートは ジャズへの情熱を燃やした青春！

これも、実に不思議なご縁…佐藤
有三さん、奥様、サッチモ、サ
ッチモハウスのスタッフ、私たち
と日本ルイ・アームストロング
協会の会員の皆様、スタッフ一
同…皆さんの気持ちが、何かを
呼び寄せた…そう感じています。
佐藤さんのお撮りになったすば
らしいジャズマンのポートレ
ートの数々…今回アマポーラで、
そのアルバムを見せていただき
て、あの時代、1960年代、70
年代に来日した偉大なジャズ
マン達への、ご主人の大きな
愛情がアルバムの写真すべて
からあふれ出しているのを感じ
、ジャズへの情熱を燃やした
私たち世代の青春とともに
当時をありありと思い出し、
深く感動させられました。

ぜひ、いつの日か、佐藤さん
の素晴らしい数々の写真が、
若い世代からシルバー世代
まで、あらゆる世代のジャズ
ファンを感動させる機会が
くるように、祈っております。

“里帰り”したサッチモ・スナップ 館長さんも絶賛！の夫妻の素顔

写真集出版に当たり、故佐藤
さんの奥様、佐藤友子さん
から、ご主人の写真をNY
サッチモハウスに寄贈したい
とお話を頂いた。佐藤さん
がとらえた自宅でくつろぐ
サッチモ夫妻の写真は、多
くのコレクションを持つサ
ッチモハウスにもない、非
常に貴重な、また写真その
ものも第一級の素晴らしい
ポートレートと、ハウスの
マイケル・コグスウェル館
長も絶賛、この心温まる
贈呈はサッチモハウスの
歴史に残るニュースとし
て、ハウスのニュースレ
ターの紙面を飾った。

2008年7月、私たちの
写真集が出版されると、
表紙に掲載された佐藤
さんのサッチモの写真と、
デザイナー、石山さつき
さんの表紙デザイン(写真
右上)が、今度はサッチ
モの故郷ニューオリンズ
で話題を集めた。「サ
ッチモ・サマーフェスト」
の事務局に写真集を送
ったところ、即座に連絡
が入り、表紙デザ



2010年の「サッチモ・サマーフェスト」でも、このようにサッチモの笑顔
が街にはんらん、パレードでも先陣を切っていた＝8月8日、マルシ
ア・サルターさん撮影

(外山喜雄 恵子)

外山喜雄&セインツと行く「サッチモの旅」(ニューヨーク編)

宿泊の NYC ウェリントンホテルは サッチモの“定宿”でもあった！！

成田からニューヨークへ13時間を超える飛行。日付変更線を越えて、出発時間とほとんど同じ31日の午後3時過ぎの到着。だから、時間的には一瞬のうちにタイムトンネルを抜けて“ジャズの都”に入り込んだ感じ。NYCでの宿泊先は、音楽の殿堂カーネギーホールのお隣、7番街55丁目の「ウェリントンホテル」。地元のガイドさんによると「ここはサッチモの定宿でもあったんですよ」とか。

当時52丁目あたりにはライブハウスが沢山あって、サッチモもクイーンズの自宅からマンハッタンに出てきたときは、他のミュージシャンともどもこのホテルを利用していたようだ。

事実、かつてサッチモが来日し、そのステージで司会を務めた評論家の故いソノテルヲ氏に彼は、「あのホテルはミュージシャンがみんな使っているんだ。あんたも新婚旅行には…」(ツアーに参加された夫人の磯野博子さんの話)と勧め…(あ、これって内緒話だった！？)。そんなことを小耳に挟んだものだから、このホテル、滞在中どこからかサッチモおじさんがニカッと姿を見せて来そうだった。

さっそく海の幸の“大盤振る舞い” ワイン、オイスター、ロブスター…

到着した日の夜は、ツアー参加者18人のうち12人も大挙してグランドセントラル・ステーション地階にある「オイスターバー& レストラン」へ。ここへ来ないとどうもニューヨークに来た気がしない。

そういえば、この会報の山口義憲編集長は若き日の米修業時代、会社の帰りによくここで同僚といっぱい引っかけていたそう。そう、



日本にいたって同じなんだけれど…。両手でしか抱えきれない大瓶の白ワイン、そして銘々が生牡蠣、特大のロブスターなど海の幸を満喫した(写真上)。

この NYC では翌日、まずハーレムを訪ねた。バプティスト教会でゴスペルを傾聴、アポロシアターの前では“ハーレムのピカソ”こと、フランコさん(82)と交流(写真①)。タイムズスクエアに近いブロードウェイのエディソンホテル地

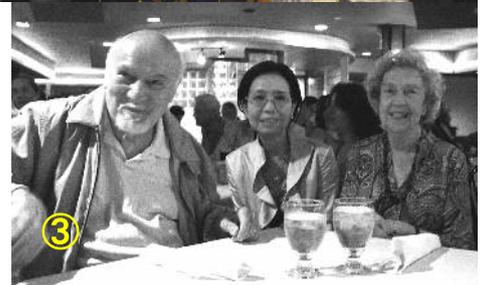
階にあるクラブでは、1920年代のビッグバンド演奏を今に伝える Vince Giordano & The Nighthawks の演奏を楽しむ。このバンドには、外山さんがサッチモ・ビッグバンドの「明るい表通りで」の譜面を前もって送っていて、この日、外山さんも交えての共演(写真②)、フロアはダンスを楽しむファンも続出した。

80過ぎと思われる年配のカップルも優雅にステップを踏む！

ジョージ・アバキアンさんご夫妻(写真③)や、かつて



来日して「サッチモ祭」にも特別出演して下さったピアニスト、ボブ・グリーンさん…ほか、よくわからなかったんですが、外山夫妻と懐かしそうに握手を交わす。



今年もゲスト出演していたのは、クラリネット奏者のソル・エイギドさん。昨年、初めて会ったとき「いいかい、まずこれを見てくれ」と差し出したコピー。「な、ここにも書いてあるように、わしはあの映画『ベニー・グッドマン物語』で、グッドマン役のステイヴ・アレンにクラの吹き方、グッドマンの癖など、いろいろ教えてあげたんだよ。ほらここに彼とのツアー・ショット写真もコピーしてきてある。これはあんたあげる。サインしてあげるから CD も買って！」。なかなかユニークな方。

NYC では、中村宏(ジャズ評論家、医学博士)ご夫妻の計らいで“ニューヨークのため息”、あの素敵な歌手ヘレン・メリルさんと再会できたのも、忘れ得ぬ思い出。ご一緒に日本料理まで…。

サッチモ夫妻の墓前で演奏、L.A.ハウス博物館では館内ツアーも

NYC 滞在のフィナーレはお待たせ！ クイーンズ (Queens) 地区の自宅を開放したルイ・アームストロング・ハウス博物館(Louis Armstrong House Museum=LAHM) 訪問と、近くのフラッシング墓地(Flushing Cemetery)に眠るサッチモ夫妻の墓参。

サッチモ邸に専用バスが着くと、待ちかねたようにマイケル・コグスウェル(Michael Cogswell)館長が一行を出迎える。そして、もうお一方、外山さんが玄関正面でトラン



ペットを吹き鳴らすと、お隣に住む名物おばさん、セルマ・ヘラルド(Selma Herald)さんが、にっこり笑って戸口に姿を見せる。なんとってセルマさんはサッチモのヨーロッパツアーに同行した経験もある、サッチモにとっては家族同然の隣人。御年87歳！ 例年ならツアーの一行とお墓参りにも同行して昼食での歓談も楽しみにしていたのに、この日は「なんかちょっと風邪気味」とか。今年も同行されず、お墓に向かうさい、お宅の前で別

れを惜む。

LAHMでは、スタッフの案内で館内を回る。手すりにサッチモ用腰掛け電動リフトのついた階段、金属類はすべてゴールド(金)という金ピカの浴室、当時としては最新・最高のオーディオ装置を備え、録音テープやレコードで埋められた書棚のある書斎、調度品などすべて壁に埋め込まれてすっきり、いかにも清潔なキッチン、サッチモが息を引き取ったというベッド…“ジャズの王様”にしては、機能的だが、浴室以外は実に質素で小ぢんまりとした2階建て住宅なのだ。地下のショップ(道路から見ると1階)には、サッチモ関係のバッジ、Tシャツ、絵はがき、書籍、ブローチなど(何から何まで欲しくなる!)土産物がいっぱい。奥にはサッチモ愛用のトランペットなどの展示室。さらにその奥のレストルームには、サッチモがトイレでお尻を出してすっぽんぽんの裸の写真!

来年には豪華なビクターセンターもアーカイブのすべての資料を集める

このサッチモ邸と道路を隔てた斜向かいの広場に豪華な「ビクターズ・センター」が来年にはできるはずだが、なんかまだ雑草が生えていて、まったくの更地。大丈夫かなあ!? ま、いずれにしろ、ここに同地区のクイーンズ大学アーカイブに保管されている楽器類、楽譜、膨大な資料などすべてが移されてくると言う。

セルマさんとも別れ、バスでセルマさんの家族のお墓もあるというフラッシング墓地へ。入り口前の花屋さんで献花を一對買ってサッチモ夫妻が揃って眠る墓前に備える。墓碑は他の献花にも囲まれ、小さな星条旗が2つ風になびく。墓碑の上には白いトランペットのデコレーション。その前で外山夫妻とセイントツが今度はデキシーを“献歌”、ツアー参加者の一人、長谷川淳一さんが、持参した尺八で「アメイジング・グレース(Amazing Grace)」を吹き、サッチモの霊を慰める。ここニューヨークもかなりの猛暑で、強い太陽の日差しが容赦なく一行に降り注いでいた。

ちなみに、この墓地のあるフラッシングは、マンハッタンから地下鉄では「7番線」の終点。サッチモハウス、フラッシング墓地、クイーンズ大学も、この「フラッシング駅」下車が便利。

(小泉良夫)



LAHM 前での記念写真。前列女性は(左から)中村美代子、セルマ、渡辺玲子、磯野博子、外山恵子。(後列左から)古川博、外山喜雄、長谷川淳一、中村宏、深町興光、土井田泰、広津誠、宇野ゆりか、藤崎羊一、サバオ渡辺、島田政昭、正木日出男、古藪隆、小泉良夫(敬称略)

日本レイ・アームストロング協会 会員名簿<2010年12月15日現在>

☆ 賛助会員

No	氏名	住所
1	ARK ミュージック志波	北九州市
2	Tim&Juliet Laughlin U.S.A	
3	朝井秀行	台東区
4	荒井 潔	横浜市
5	荒井正雄	西東京市
6	安西栄一	静岡県駿東郡
7	安藤脩二	逗子市
8	池下 龍	新宿区
9	石川富太郎	足柄下郡
10	今井正義	前橋市
11	岩品光雄	松戸市
12	岩嶋東也	世田谷区
13	上田一生	三重県名張市
14	上田訓男	新宿区
15	上田三千子	新宿区
16	大崎亮三	世田谷区
17	大島 寛	柏市
18	太田忠興	中央区
19	大津正一	宇都宮市
20	大西秀允	流山市
21	大西正則	座間市
22	大和田浩	横浜市
23	大和田守	新宿区
24	奥山康夫	佐倉市
25	折橋 健	北区
26	加藤 元	渋谷区
27	神沢節子	埼玉県北本市
28	北沢元朗	港区
29	倉田 学	名古屋市
30	劔持 叡	船橋市
31	肥塚重雄	世田谷区
32	小林永治	中央区
33	近藤秀子	三鷹市
34	佐藤 修	港区
35	柴内裕子	港区
36	柴田昌男	宇都宮市
37	菅野満雄	足立区
38	鈴木芳郎	横浜市
39	須藤靖夫	多摩市
40	関 喜和	浦安市
41	多賀弘明	台東区
42	高木康有	さいたま市
43	高野 孟	鴨川市
44	武田 徹	長野市
45	田中光彦	仙台市
46	田辺秀夫	愛知県知多郡
47	土井田泰	広島市
48	富田宗義	渋谷区
49	富永照子	台東区
50	外山初江	大田区

No	氏名	住所
51	外山喜雄	浦安市
52	外山恵子	浦安市
53	内藤寿昭	世田谷区
54	長島国次	大田区
55	永谷正嗣	新宿区
56	中村 宏	所沢市
57	中村義孝	岩手県下閉伊郡
58	中村喜世子	岩手県下閉伊郡
59	南湖征二	船橋市
60	新山 敏	新宿区
61	西松 實	世田谷区
62	新田豊彦	港区
63	早川豊水	八王子市
64	平井昌美	横浜市
65	深町興光	北九州市
66	富生安昭	杉並区
67	増山瑞比古	宇都宮市
68	松居克彦	平塚市
69	松村善一	千代田区
70	松本隆一	練馬区
71	宮原 明	府中市
72	室橋幸三郎	千代田区
73	森 忠彦	港区
74	安江祥晃	江戸川区
75	柳 満	台東区
76	横田昭夫	大田区
77	依田孝子	横浜市

☆ 一般会員

No	氏名	台東区
1	Tim Ashida	台東区
2	青柳正子	宇都宮市
3	浅井貞彦	千葉市
4	浅野素一	世田谷区
5	阿部 豊	石岡市
6	荒井京子	西東京市
7	飯窪敏彦	中央区
8	飯塚健一	品川区
9	五十嵐正樹	武蔵野市
10	石井 修	品川区
11	石原規子	江戸川区
12	磯野博子	目黒区
13	市川和子	世田谷区
14	市野澤文未子	文京区
15	一丸藤太郎	広島県安芸郡
16	伊藤順子	船橋市
17	伊藤義之	船橋市
18	井上南都子	川崎市
19	今泉恒文	横浜市
20	岩崎明彦	渋谷区
21	岩崎博芳	杉並区
22	岩間辰志	さいたま市

No	氏名	住所
23	上野悦子	小平市
24	宇田川允敏	杉並区
25	内田 修	愛知県愛知郡
26	遠藤春吉	八王子市
27	遠藤益夫	千葉市
28	大川日出夫	川崎市
29	大塚浩二	小金井市
30	大貫貴巨	横浜市
31	大野温子	世田谷区
32	大野 守	板橋区
33	大庭和雄	さいたま市
34	大島廣起	渋谷区
35	大平和夫	杉並区
36	大森節夫	新宿区
37	岡持登美夫	さいたま市
38	岡島昭道	横浜市
39	岡本節夫	船橋市
40	荻原和幸	世田谷区
41	奥川 清	京都市
42	奥西康平	国立市
43	奥村清文	川崎市
44	奥村久美子	川崎市
45	奥山庸子	世田谷区
46	小熊良雄	三鷹市
47	尾崎光三	港区
48	小野 宏	浦安市
49	小野寺久	世田谷区
50	柿崎拓哉	横浜市
51	梶原達観	町田市
52	勝股幸子	文京区
53	加藤 脩	板橋区
54	加藤 容	世田谷区
55	金子征一郎	豊島区
56	鎌田政稔	川越市
57	鎌田義雄	大阪府河内長野市
58	蒲地健治	富士見市
59	神谷芳憲	世田谷区
60	鴨下禎二	調布市
61	川口常仁	清瀬市
62	川原田誠	足立区
63	菊池卓也	大田区
64	北浦康司	川崎市
65	儀間 進	東村山市
66	木村陽一	芦屋市
67	木村純士	芦屋市
68	清久淳子	横浜市
69	清野善五郎	大田区
70	久保幸造	愛媛県西予市
71	久保井かおる	横浜市
72	久保田隆志	浦安市
73	蔵菌剛毅	所沢市
74	栗原正司	横浜市
75	栗山定幸	逗子市

No	氏名	住所
76	小浅邦子	品川区
77	小泉良夫	荒川区
78	小出芳明	八千代市
79	古井丸喜良	習志野市
80	河野文男	川崎市
81	河本健一	西宮市
82	古賀 孜	川崎市
83	小長井浩	さいたま市
84	小林正一	宇都宮市
85	小松多香子	小平市
86	西條光昭	富士宮市
87	佐々木徹雄	藤沢市
88	佐宗雅幸	小田原市
89	佐藤 節	宇都宮市
90	佐藤政朗	江戸川区
91	椎橋邦雄	山梨市
92	柴山修一	文京区
93	清水正一郎	杉並区
94	鈴木恵美子	栃木県下都賀
95	鈴木和子	中野区
96	鈴木鐵雄	松戸市
97	鈴木陸夫	港区
98	住田敏和	千葉県山武郡
99	住友貞彦	船橋市
100	瀬川昌久	新宿区
101	関口美夫	栃木県下野市
102	相馬威宣	北区
103	高石圭三	豊島区
104	高河昭一	所沢市
105	高島 毅	高松市
106	高田雅昭	鎌ヶ谷市
107	高橋健吉	八千代市
108	高橋正雄	堺市
109	竹内征一	新潟市
110	武田和親	明石市
111	巽 洋二	四街道市
112	田中雅夫	市川市
113	田村敦彦	葛飾区
114	田村昭三	目黒区
115	辻田 明	浦安市
116	寺島邦夫	世田谷区
117	寺田幹太	狛江市
118	戸田正樹	富山県滑川市
119	外山弘光	横浜市
120	豊島 克	杉並区
121	直江寧和	中野区
122	永井 元	文京区
123	永井宣一	板橋区
124	長岡芳雄	川崎市
125	中谷秀樹	埼玉県狭山市
126	中林宗司	練馬区
127	長峰郁夫	長野県南安曇
128	中村美代子	所沢市
129	中村良子	柏市
130	中山邦夫	水戸市

No	氏名	住所
131	中山裕義	荒川区
132	那波幸子	川崎市
133	鍋本ゆり	小平市
134	鳴川哲夫	杉並区
135	西方和宏	浦安市
136	西谷晃男	茨城県牛久市
137	仁科善弘	茅ヶ崎市
138	西部曠介	船橋市
139	納見明德	佐渡市
140	蓮井恵子	国分寺市
141	長谷川淳一	太田市
142	長谷部広行	世田谷区
143	畑田延浩	神戸市
144	林 新三	松戸市
145	原田博司	市川市
146	原野精司	横浜市
147	半田喜胤	宇都宮市
148	樋口加鶴夫	江戸川区
149	肥後崎英二	横浜市
150	福田 等	埼玉県加須市
151	福元希高	杉並区
152	藤原宏史	宇都宮市
153	古川 博	京都市
154	古澤 隆	鎌倉市
155	古藪 隆	国分寺市
156	星野正典	足立区
157	細川敏子	東久留米市
158	堀井正義	佐倉市
159	本間保代	さいたま市
160	真崎晃郎	浦安市
161	正木日出男	鎌ヶ谷市
162	松井 肇	大阪市
163	松本圭市	文京区
164	丸尾信哉	北九州市
165	三賢籠子	浦安市
166	水越有造	川崎市
167	宮宇地伸枝	調布市
168	宮城 健	練馬区
169	宮脇忠行	大阪市
170	三好弘二	愛媛県伊予郡
171	村上逸桜	練馬区
172	森 健吉	墨田区
173	森田育弘	北区
174	安田実男	福岡県古賀市
175	安間孝信	横浜市
176	柳澤安信	松戸市
177	柳原ちか雄	新潟県三条市
178	山口良夫	兵庫県加西市
179	山下剛三	横浜市
180	山田善之	東京都稲城市
181	山本俊兵	東大和市
182	横内知子	世田谷区
183	吉田 博	大和市
184	吉田洋子	栃木県下都賀
185	吉本悠久	杉並区

No	氏名	住所
186	渡辺研介	調布市
187	渡辺理明	船橋市
188	渡辺奈子	渋谷区

会 長：外山喜雄
理 事：奥村清文
理 事：小泉良夫
理 事：山口義憲
理 事：外山恵子
会 計：横田昭夫
事務局：細川ハテミ
ボランティアスタッフ
 渡辺研介
 蓮井恵子
 福元希高
 肥塚重雄
 外山洋一
 伊藤咲子

特 報 !

輪を広げた“銃に代えて楽器を！”活動 ニューオリンズでまた新たな動き… 「Trumpets Not Guns」が誕生！！

2006年、ニューオリンズでスラムの無料音楽プログラムを実践している「ルーツ・オブ・ミュージック」は、私達WJFの“銃に代えて楽器を！”にヒントを得てスタートしました。2009年には、このグループのリーダー、デリック・タップさんがCNNニュースのトップ10 ヒーローにノミネート、第2位となり世界の注目を浴びました！ 彼らのスローガンは、「Horns for Guns」(ホーンズ・フォー・ガンズ=銃に代えて楽器を)と、WJFのスローガンそのままだったことは、この会報で何度もお知らせしたとおりです。



そんな折、米感謝祭の新聞には、ニューオリンズのお巡りさんが始めた音楽教育プログラムの記事も紹介されていました。

さらに最新の情報によると、ニューオリンズにもうひとつ、銃に代えて楽器を持つ、という団体が誕生、活動を開始しているということです。

何と！ そのスローガンは「Trumpets Not Guns」(トランペット・ノット・ガンズ=銃に代えてトランペットを持つ)だったのです。

日本ルイ・アームストロング協会が1994年に活動を初めて16年、日本から海を渡りジャズとサッチモの故郷に根付いたこのスローガンは、いま見事な一人歩きを始めるまでになっています！ これらの活動がさらに広がることを願うとともに、これに至った皆様の長年のご支援に心から感謝いたします。

アマチュア・ビッグバンド「ジャイブ・ユニティー・ジャズ・オーケストラ」に招かれて仙台へ
外山夫妻も大感激の「Tribute to Louis Armstrong」
 杜の都にもサッチモの熱狂的なミュージシャン、ファンがいっぱい

杜の都・仙台市(宮城県)にも、サッチモの熱狂的なファン(フリーク!?)、ミュージシャンが活動していた! 外山喜雄・恵子夫妻は、11月18、19の両日、その仙台市を訪れ、そんな地元ジャズ・ミュージシャン、ファンと心温まる交流を深めてきた。外山夫妻からの熱いレポートをお届けします!

**警察官、教員、会社員、自営業…が集い
 C・ベイシーなどレパートリー200曲以上!**

今回の仙台行きは、仙台のアマチュア・ビッグバンド、ジャイブ・ユニティー・ジャズ・オーケストラが32回定期コンサートでルイ・アームストロングを取り上げることとなり、私たち夫婦がゲストで出演したものです(写真下)。

ジャイブ・ユニティーは1971年から活動、来年40周年を迎える歴史ある楽団。メンバーの職業が警察官、教員、会社員、医師、自営業等々…。厳しい日程調整、転勤や練習場所の確保等多くの難問、課題を抱えながら、「ビッグバンドを続けたい」とのメンバーの熱い想いで長年続いてきたといえます。ビッグバンドの雄、カント・ベイシーを中心に200曲以上のレ



パートリー、これまでマーサ三宅、中本マリ、金子晴美、片岡雄三、エリック宮城といった日本を代表するボーカリストやプレイヤーとの共演コンサートを重ねてきました。最近では犯罪被害者支援をはじめ、チャリティを兼ねてのコンサートにも力を注いでいる楽団です。

リーダーで元トランペッター、現在は指揮者の阿部憲次郎さんを中心に純粋なジャズを追求しているこのバンドには、コルネット、トロンボーン、フレディー・グリーンバリのギターも担当する立花明さんもいて、阿部さんが私と同じ66歳、立花さんが70代と、大変デキシー、ニューオリンズジャズに造詣の深い世代で、ルイ・アームストロング、バック・クレイトン、ジャック・ティージャーデン…などクラ

シックジャズにも大変関心を持った希有な楽団です。バンドの世話役をつとめられる元警察官の阿部信三郎さんは阿部さんの弟さん、また、コンサート開催にあたっては信三郎さんの奥様も裏方を一手に引き受けるという、兄弟家族でジャズを支える楽団でもあります。

もう20年前のコンサートから、「Tribute to Louis

Armstrong=ルイ・アームストロングに捧げる」というサッチモ・メドレーをプログラムに入れているというから驚き!

**「ルイ・アームストロングに捧げる」
 ビッグバンド・アレンジでメドレーも**

このメドレーは、サッチモの『南部の夕暮れ』、『コルネット・チョプスイ』、『聖者の行進』、『バーベキュー料理で踊ろうよ』、そして『ウエストエンド・ブルース』をイメージしたトランペット・カデンツァも入ったビッグバンド・アレンジ。

11月19日夜7時から9時15分、仙台市太白区文化センター「楽楽楽(ららら)ホール」で開催された、ジャイブ・ユニティー・ジャズ・オーケストラ第32回定期コンサート、同楽団のカウント・ベイシーば

りの『君ほほえめば』や、『セントルイス・ブルース』、『マック・ザ・ナイフ』など、サッチモなじみの曲が並んだ第1部に続き、第2部で、私たち外山喜雄(tp,vo)、恵子(bj)がゲスト参加。

前述のルイ・アームストロング・トリビュートのメドレーの他、デューク・エリントンがクーティ・ウィリアムス(tp)のために書いた『ポートレート・オブ・ルイ・アームストロング』、『セッシボン』、『ワット・ア・

ワンダフル・ワールド』をビッグバンドで。そして、バンドのピックアップ・メンバーとのデキシー編成で、『ハロドーリー』、『世界は日の出を待っている』、『ダークアイズ』、フィナーレ



外山夫妻とともに…。左の写真は「カウント」マスター、朴澤伸夫さん、右の写真は田中光彦さん

はプラス、サクセスクションが会場を練り歩く『聖者の行進』！会場を埋めた500人の観客の皆さん、楽しそうで、顔つきが違いました！と主催者から嬉しい感想をいただきました。この晩のコンサート収益金は、は犯罪被害者支援の会に寄付されるという WJF の“銃に代えて楽器を”とも、共通したテーマ！

「黒人ジャズマン人形」もこちらから… WJF を支えてくれている佐々木さんと

また、今回の仙台行きのきっかけとなったのは、仙台でジャズのお店「ジャズ・ミー・ブルース“ノラ”」経営していらっしゃる佐々木孝夫

さん(写真右)というのも、不思議な“ご縁”を感じます！



佐々木さんは、2005年のハリ

ケーン直後から、たまたま沢山の在庫をお持ちだった黒人ジャズマン人形を販売、ニューオリンズへの募金をと、長年 WJF のニューオリンズ基金に寄付を送って下さっている方。昨年 of 日本ルイ・アームストロング協会設立15周年パーティーの記念品として、また、サッチモ祭にも多数の人形を提供して下さいました。

元々ロックがお好きだった佐々木さん、ギタリスト、ジェフ・マルダーがピックス・バイダーベックを取り上げたアルバム、『ジャズ・ミー・ブルース』に感動し、ジャズファンに、青葉区錦町にジャズライブも開催するお店「ジャズ・ミー・ブルース“ノラ”」として開店している。このお店で、5月にライブを開催、そのメンバーがジャイブ・ユニティーのメンバーで、当日ドラム担当の阿部さんもいらっちゃって、その縁で私たちのゲスト出演の話を持ち上がった…とのこと。いろいろ不思議なご縁を、感じます。

佐々木さんのお店、「ジャズ・ミー・ブルース“ノラ”」…ノラは、ニューヨーク州ニューヨーク市を NYNY、と表記するように、ルイジアナ州ニューオリンズ市を示す NOLA(…私たちのノラ・ミュージックも、その意味で、“野良”ではありません)

今回、仙台で是非佐々木さんに恩返し代わりにライブをしたいと思い、コンサート前日18日に、佐々木さんのお店で、ジャイブ・ユニティーのピックアップメンバーとライブ開催が実

現したのも、とても嬉しい出来事でした。初顔合わせの仙台の皆さん…でも、デキシード・ジャズに造形の深い70歳代の立花明さんのトロンボーン、元プロ・ミュージシャン高橋良一さんのスコット・ハミルトンばりのテナーサクソ、檜崎純一さんのクラリネット、片倉加寿子さんのピアノ(お嬢様の片倉真由子さんが世界的ジャズピアニストとして昨年デビュー)、斉藤英三さんのベース、そして阿部信三郎さんのドラムで大盛り上がり！

佐々木さんに、ミュージシャンの皆さんに、また、お客様に喜んでいただけて嬉しく思いました。

ニューオリンズ・スタイルのプラスバンド 若さあふれる「ジャンピング・クロウ」登場

また、この晩のライブのインターミッションに、なんと地元で演奏する、ニューオリンズ・スタイルのプラスバンドが乱入！ニューオリンズに住んだことのあるチューバ奏者が、仙台のニューオリンズサウンドを！と結成、指導した、平均年齢30歳そこそこの「ジャンピング・クロウ」というストリート・バンド！感激でした！！

また、仙台には、日本ルイ・アームストロング協会1994年7月の設立からの賛助会員で、青葉城の護国神社宮司、田中光彦さんもいらっしゃる。田中さんは、学生時代、私が渋谷スイングに通い詰めた頃からのジャズの先輩…渋谷のマスターの留守には、リクエストに答えるレコード係まで担当したという

ジャズ通。すっかりお世話になり、のど元まで牛タンと仙台牛詰めになりました！感謝。

コンサートの後、ジャイブユニオン of 皆さんはジャズ喫茶“カウント”で歓迎会を開いてくれました(写真左)。1960年代のジャズ喫茶がそのまま出現したような、すてきなお店と、すばらしいLPコレクション、そしてアル



阿部信三郎さんと奥様(前列左のお2人)、阿部憲次郎さん(同右から2人目)

テックの本格的スピーカー！聴けば、ベイシーのLPコレクションではトップクラスを行き、ジャイブユニオン of たまりのお店…アルテックのスピーカーで聴く中間派ジャズやサッチモ…そしてジャズを愛するジャズ・ミュージシャン達と盛り上がったサッチモとジャズ談義…。サッチモのハートが、こういう形で皆さんに理解していただけることに、感激しています。また、こういう熱心なジャズとサッチモを愛する皆さんが、各地にいらっしゃること…この世は広い…と感激しきりです。

杜の都・仙台、サッチモのハートと不思議なご縁で結ばれた、すてきな夜が続いた何日かでした！(外山喜雄 恵子)

WJF スタッフ 体当たり体験ツアー

ニュー・オルリンズへ一人旅

第3弾 ニュー・オルリンズ食い倒れ

(写真と文・渡辺研介)



2010年8月、ニュー・オルリンズに行ってきた。今回はサッチモ・サマーフェストに出演のため当地を訪れておられた外山さんとセイントの皆さんや、ツアーの方々とも一日だけですが一緒にすることができ、一人歩きは危険といわれるトレメ地区にも足を踏み入れ、ジョージ・ルイスが洗礼を受けたといわれる St.オーガスチン教会にも行くことができました。協会の会報にレポートをというお話を頂いたのですが、これまでに何度も同じようなレポートを書かせて頂いていますので、今回はちょっと趣向を変えて**<フレンチ・クォーターのグルメ事情>**をレポートしたいと思います。

現地時間の 8/7、夕方にホテルにチェックイン。早速夕食です。まずはホテルのある St.アン通りとディケーター通りの角にあるレストランで。**<ガンボ>**に**<ルイジアナ・パスタ>**です。ガンボは当地の定番メニュー。炒めた小麦粉の香ばしさを出したり、煮込んだ野菜のコクに特徴があったり、唐辛子の辛さを強調したりとお店によっていろいろな特色のあるメニューです。大体のお店ではサイドメニューとして小さめのサイズが用意されていますので、いろんなお店で食べ比べがお勧めです。



8/8 の朝食はホテルで。巨大な**<クロワッサン>**に**<チコリ・コーヒー>**。中までぎっしり詰まった巨大クロワッサンはなかなかボリュームがあります。チコリはキク科の植物の根っこをコーヒーに仕立てたものです。南北戦争でコーヒーが入手困難になったときの代用食として使われたという説もあります。独特の苦味がモーニング・コーヒーには最適。



午前中は St.オーガスチン教会でサッチモのバースデー特別礼拝。外山さんも演奏されました。その後、教会の集会所で頂いたのがこれ。**<レッド・ビーンズ&ライス>**。サッチモが手紙の結びとして Sincerely Yours の代わりに Red Beans & Ricely Yours と書いていたことでも有名な現地の家庭料理です。ソーセージにモツか何か脂の乗ったやわらかい肉を豆と一緒に煮込んだもの。日本ではお目にかかれない長粒種のご飯も珍しく…。名目上は教会に 5 ドル寄付する



と振舞われるということになっているようです。

おやつは**<サッチモのバース・デーケーキ>**です。サッチモ・サマーフェストのフィナーレ、ステージ上で切り分けてお客さんに振舞われます。こちらのスイーツは甘さが尋常ではありませんのでご注意ください。

夜はプリザベーション・ホールで渡辺真理さんやフレディー・ロンゾさんと再会し、演奏を楽しんだ後、ディケーター通りのパームコート・ジャズ・カフェへ。トラディショナル・ジャズの生演奏も聴けますが、お料理にも力を入れているお店だそうです。ここでも**<ガンボ>**、それにもうひとつの



定番メニューの**<ジャンバラヤ>**です。ニュー・オルリンズ風炊き込みご飯です。

8/9 の朝はホテルの朝食、お昼ごはんはアイバビル通りのフェリックスへ。メキシコ湾のオイル流出事故で心配だったシーフードですが、名物の**<生ガキ>**もちゃんとサービスされていました。地元産のカキなのかどうか僕の舌ではよく分かりませんが、とにもかくにもシーフード・レストランは営業を続けていて一安心。そしてここでも**<ガンボ>**。



夕食は St.ピーター通りにあるガンボ・ショップへ。定番の**<ガンボはカップ・サイズ>**の小さいのを注文。メインはニュー・オルリンズ名物の**<Po-Boy>**を。ニュー・オルリンズ風巨大ホット・ドッグと想像いただければよいでしょう。前回の滞在ではチキンを頂いたので今回はちょっと贅沢してビーフを。絶品のソースでジューシーに焼き上げたビーフを挟んだ Po-Boy です。ピクルスはキュウリを縦に切ったものなので、比べてみるとその巨大さがお分かりいただけると思います。何を頼んでも付いてくるフランスパンはさすがに食べ切れずお持ち帰り。



8/10。朝食を抜いてフレンチ・クォーターを散策後、バーボン通りとロイヤル通りをぶち抜きで営業しているコート・オブ・トゥー・シスターズへ。**<ビュッフェ形式のジャズランチ>**が名物です。初めて当地にやって来たときに知り合ったベーシストのアル・ベルナードさんにも再会。ちょっとこってりした味付けのお料理が多いのですが、**<タートル・スープ>**

なんていう珍しいお料理も。

ここでの目当ては大好物の**<ポイルド・クロウフィッシュ>**。スパイスで茹で上げたザリガニです。基本的にこの時期はシーズンオフらしく、ほかのレストランではサービスされていないのですが、このお店は夏場なら提供し



ているようです(冬に行ったときはありませんでした)。ザリガニだけで5皿ほどお代わり。他のお客さんはほとんど手を出さないの心ゆくまでザリガニを楽しみました。店員さんに頼むと手洗い用のレモン汁のお湯も出してくれます。

さすがにお昼ご飯はスキップして夕食は再びガンボ・ショップへ。昨日 Po-Boy を食べに行ったときに隣のテーブルのお客さんが食べていたチキンがおいしそうだったので再び来店。本日のメニューは<チキン・エスパニョール>です。オーブンで焼き上げた骨付きの鶏肉にニュー・オルリンズ風(スペイン風なのかな?)のソースというカレーがかかっているお料理。ご飯も付いていますが、ここでも<スモールサイズのガンボ>を。野菜を煮込んだコクのある味わいがこの店のガンボの味です。



8/11の朝は日本にも支店がある有名店カフェ・ドゥ・モンドへ。ふわふわの揚菓子、まあ言ってみれば四角いふわふわドーナツにパウダーシュガーがたっぷりかかった<ベニエ>というお菓子の店です。飲み物は<チョコリのカフェ・オレ>を。有名店だけあって昼間は大変混雑しますが、朝の早い時間帯ならば空いています。ちょっと早起きしてベニエを朝食に頂いてからミシシッピ河を散歩なんていうのも楽しいものです。場所はミシシッピの土手のすぐこちら側。St.アン通りの河側の突き当りです。



ランチはディケーター通りにあるフィオレラズ・カフェで<パスタ>を。パームコート・ジャズ・カフェの並びにあります。前回の滞在中に通りがかった時、歩道のテーブルでお客さんが食べていたパスタが美味しそうだったので入店したのがきっかけ。レストランというよりはちょっとローカルな感じの食堂といった感じの雰囲気が大変気に入っています。焼いたチキンにチーズたっぷりの<フェットチーネ>です。

夕食はバーボン通りと St.ピーター通りに入り口があって、プリザベーション・ホールをぐるりと取り囲むように陣取っているパット・オブライエンズへ。このレストランの2階住居部分が外山さんご夫妻のかつてのお住まい。当時は敷地の半分が別のお店で、その中庭で外山さんたちが演奏をして大変な評判だったそうですが、現在は敷地全体がパット・オブライエンズになっています。メニューはピリ辛ソースの<チキン・ウイング・フライ>に<レモン・ウォッカ・ソースのパスタ>。レモンソースって日本ではあまりお目にかかりませんが、レモンの酸味が食欲をそそるなかなか美味しい味付けです。本日は昼夜と2食パスタが続きました。ニュー・オルリンズでは普通のレストランでもパスタを食べさせるお店が意外に多いのです。イタリアンとはちょっと違ったニュー・オルリンズ風



ニュー・オルリンズといえ

バスタをいろいろなお店で食べ比べするのも楽しいものです。

8/12日。滞在は翌日までですが、早朝のフライトでニュー・オルリンズを立ちますので本日が実質的な最終日。ニューオリご飯とも今日でお別れです。フレンチ・クォーターをいろいろと見て周り、最終的に St.アン通りとロイヤル通りの角にあるレストラン兼バーみたいなお店でブレックファスト・メニューを。窓際の席を確保してロイヤル通りの美しい町並みを眺めながらの優雅な朝食・・・と思ったら、まず始めに<ガンボ>、次に出てきたのが大皿の真ん中をご飯で仕切った両側に<シュリンプ・クレオール>と<レッド・ビーーンズ>、おまけに<ジャンバラヤ>まで付いてきて朝からボリューム満点。ブレックファスト・メニューというよりは単に朝から営業しているというだけでサービスされているお料理はランチやディナーと同じなんじゃないでしょうか?しかしながらクレオール&ケイジャン料理の四天王を一度に頂ける盛りだくさんなメニューに朝から満足。



ランチは消費税の払い戻しに行ったリバー・ウォークのフードコートで。こちらにもいろいろなお店が出店していてどれも美味しそう。<レッド・ビーーンズ&ライス>に<スパイシーなサラダ>など盛り合わせたセットを。ごく軽そうなメニューですが結構ボリュームがあります。朝ごはんがへビーだったからかな。



さて、いよいよニュー・オルリンズ最後の晚餐です。今日からは朝からお腹一杯だったので、夕食は軽めにしてディケーター通りにあるフレンチ・マーケット・レストランで<ナマズのフライ>を単品で注文。しかし、これがまたでかい!! 淡泊な中にも淡水魚独特の風味(人によってはこれを臭みと感ずるのかも)があるナマズをカリカリのコロモで包んだなかなか美味しいお料理でした。この後フリツェルズでトム・フィッシャーさんの演奏を堪能して今回の滞在も無事終了です。



ニュー・オルリンズといえ

ジャズ映画とライブと…来年2月、特別例会予告

お帰りなさい！！ サー・チャールズ・トンプソン！！

92歳にして1950年代と変わらぬ奇跡のプレイ！

幻のピアニスト、12年ぶりに日本帰国

＜蘇るバンガード盤、ビック・ディケンソン・ショーケース・セッション！！＞(2011年2月15日、WJF 特別例会)

ジャズの名盤、バンガード・レーベルのビック・ディケンソン・ショーケースは歴史に残る名演として知られています。



ビック・ディケンソン、エドモンド・ホール、ルビー・ブラフ、そしてピアニスト、サー・チャールズ・トンプソン…デキシーランド、スイングジャズ、モダンジャズの香りをそれぞれ漂わせたそのユニークなジャズ・サウンドは、中間派ジャズと若手ジャズ評論家だった大橋巨泉さんが命名、以来幻の名演として多くのジャズファンを魅了して来ました。このジャズ・サウンドを特徴づけているのがピアニスト、サー・チャールズ・トンプソンの詩情溢れるピアノソロ。

サー・チャールズさんは、1990年代日本で結婚し、1998年にカリフォルニアに帰国。それまで何度もWJFの例会に出演し、2006年から7年第5回例会から8回まで、そして2002年3年と日本に短期間“里帰り”して、すばらしい演奏を聞かせて下さいました。

この日本ルイ・アームストロング協会特別例会では、当時のジャズ映画と生演奏で、ジャズ界のホロヴィッツ！サー・チャールズさんの伝説のプレイが蘇ります。

皆さんでサー・チャールズさんと奥様の“ご帰国”をお祝いしましょう！

日時:2月15日(火)午後6時30分開演
場所:アテネフランセ文化センター4Fホール
(エレベータが完備されました)
前売り:会員3000円 非会員3300円
当日:会員3500円 非会員3800円
お申し込み:日本ルイ・アームストロング協会
Tel:047-351-4464 Fax:047-355-1004
Email: saints@js9.so-net.ne.jp

出演:外山喜雄とデキシーセインツ
サー・チャールズ・トンプソン (p)
外山喜雄(tp,vo),外山恵子(g,bj),鈴木孝二(as,cl)
広津誠(ts,cl),粉川忠範(tb),藤崎羊一(b)
サバオ渡辺(ds),山本勇(ds)
ゲスト:ジャズ評論家 瀬川昌久
司会:山口義憲(ワンダフルワールド編集長)

◇ジャズ名画上映！！ ジャミング・ザ・ブルース他

ご寄付と嬉しいお手紙

ありがとうございます！！

勝田 稔様 (渋谷区)

トランペット2本とコルネット

元NHKで紅白歌合戦ほか音楽番組をご担当されたプロデューサーで、ご自身もトランペッター。

勝田様有り難うございました。

福島明美様(西東京市)

トランペット・マウスピース 4本

原信夫とシャープス&フラッツで活躍された名トランペッター一故福島照之さんの遺品をご寄付いただきました。

＜ご寄付＞

- ◆ 中村義孝様 喜世子様(会員 岩手県)
44,500円
- ◆ うつのみやジャズのまち委員会委員長
吉原郷之典様
41,683円

募集中！

♪ジャズを愛する皆様
どうか会員になって下さい！！
また皆様のお知り合いの方々に
ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

=WJF年会費=

一般会員(General Membership)	¥6,000
学生会員(Student Membership)	¥3,000
賛助会員(Friends of Louis Armstrong)	¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京UFJ銀行浦安駅前支店

普通：5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax: 047-355-1004

Email: saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Googleで

ルイ・アームストロング

ビッグなクリスマス&新春プレゼント！サー・チャールズ・トンプソンがWJF恒例のジャズクリスマスに出演、そして来年2月15日のWJF特別例会では「蘇るバンガード盤、ビック・ディケンソン・ショーケース・セッション」が開催されます。関連記事は3ページの10月、12月の項と最終ページをお読みください。▼米国の感謝祭の日のニューオリンズの新聞社説で、WJFの楽器贈呈に感謝の意を表明したという記事はトップページです。嬉しい限りです。▼ニューヨークツアレポートも密度の濃い盛りだくさんの情報が満載です。▼杜の都・仙台での外山夫妻参加のサッチ・モ・トリビュート・コンサート報告は、仙台のサッチモファンの喜びを伝えます。▼そして、食欲増進効果満点エッセイは会員渡辺研介さんの「ニューオリンズ食い倒れ」▼会員名簿もご覧ください。(山)

編集長から